

アウトリーチ

通信



第 19 号

2012 年 3 月 20 日発行
年 2 回発行

神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター

子どものための

コンサート・シリーズ

スペシャル・コンサート

「子どものためのスペシャル・コンサート、フルートの魅力を満喫しよう！」(子どものためのコンサート・シリーズ第三十二回)を十月十五日(土)十五時より講堂で開催しました(来場百三十七名)。

出演はフルーティストの榎田雅祥本学音楽学部教授を中心に、大学院音楽研究科生二名と音楽学部生十名の計十二人の学生たちです。

「いろいろな時代のさまざまなフルートを紹介しながら、楽



しいお話とすぐれた演奏で、音楽のおもしろさ

をお届けします」という趣旨で行われたこのコンサートは、バロック時代の木製のフルートから近代の金属製のフルートまでを紹介して、各楽器にふさわしい曲を順に聞いていくという大変に贅沢なプログラムです。

フルートについての導入のお話の後、まずはフランス・バロックの作曲家ジャック・マルタン・オートテールの《トリオ・ソナタ》を神戸女学院大学古楽同好会バロッカーズ(Batouker)ン(オートテール・フルート・榎

田雅祥および大学院音楽研究科二年樋口愛、チェンバロ・同二年須山由梨)が演奏。続いてヨハン・ゼバスティアン・バッハの《ロンドとポロネーズ》をクヴァンツ・フルート・榎田雅祥、チェンバロ・須山由梨で演奏しました。クヴァンツはプロイセンのフリードリッヒ大王のフルートの先生として知られる人物で、バッハも晩年に次男坊のカール・フィリップ・エマヌエル・バッハをベルリンに訪ねた際に



出会っています。

続いて、十九世紀フランスの作曲家ジャン・ルイ・トゥールの書いた《「ナブッコ」による幻想曲》をトゥール自身が制作したフルートで演奏(トゥール・フルート・榎田雅祥、ピアノ・須山由梨)。トゥールはバーム式のフルートを嫌って、フランス独自のフルートを守ろうとした人物です。

日本の歌《花》(紅葉)(フルート・山川美和、ピアノ・須山由梨)の二曲に



続いては、十九世紀後半から二十世紀初頭にかけてフランスで活躍したポール・タファネルが書いた《優雅なインドの人々》による幻想曲(フルート・榎田雅祥、ピアノ・須山由梨、タンバリン・佐野里穂)。ハンガリー人の作曲家フランツ・ドップラーが旅の思い出を曲にした《リギの思い

た《優雅なインドの人々》による幻想曲(フルート・榎田雅祥、ピアノ・須山由梨、タンバリン・佐野里穂)。ハンガリー人の作曲家フランツ・ドップラーが旅の思い出を曲にした《リギの思い

出》(フルート・樋口藍、アルト・フルート・廣瀬紀衣、ピアノ・須山由梨)では、チューブラー・ベル(佐野里穂)が加わって牧歌的な雰囲気醸し出しました。

フルー
トの一族
(ピッコ
ロ、ソプ
ラノ、ア
ルト、バ
スの四
種)を紹
介した後、
ドビュッ



シー作曲の《アラベスク》をフルート専攻の学部生十人(兵頭千裕、佐野里穂、浅野菰莉、濱悠理子、中野紗耶、柴山聡子、廣瀬紀衣、山川美和、北山佳世、鈴木晴子)が、ピッコロ(二本)、フルート(四本)、アルト・フルート(二本)、バス・フルート(三本)という編成で演奏しました。最後に、会場の子どもたちが持参したペット・ボトルを吹いて、マンシーニ作曲《子象の行

進》を学生たちと一緒に合奏して盛り上がりました(オルガン・須山由梨)。



フルートに挑戦していました。

当日の会場アンケートでは、お客様から「フルートのことがよくわかった」「色々な時代のフルートの演奏が聴けてよかった」「ペット・ボトルを使ってみんなで演奏ができて楽しかった」「いい音を生で聴けるこの企画をこれからも続けてほしい」といった意見が多数寄せられました。今後子どもたちの興味と音楽の歓びを広げるようなコンサートが続いていきたいと思っています。

(津上智実・記)

クリスマス・コンサート

十二月十日(土) 本学講堂にて、「子どものためのクリスマス・コンサート〜モーツァルトとクリスマス☆」(子どものためのコンサート・シリーズ第三十三回)を行いました(第一部十一時、第二部十五時半開演、来場者数計七百九十四名)。



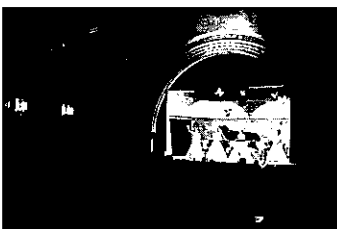
演奏は「アンサンブルちようちよ」の四名(声楽・谷田奈央、フルート・今井さつき、ピアノ・白坂亜紀、西村遥子)です。私たち「アンサ

ンブルちようちよ」は、在学中に履修した「音楽によるアウトリーチ」の授業で意気投合し、二〇〇七年に本学卒業後、グループを結成しました。これまでに保育園、幼稚園、小学校や病院、施設、プラネタリウムなどでコンサートを開催し、ファミ

リー向けのコンサートにも力を入れていきます。

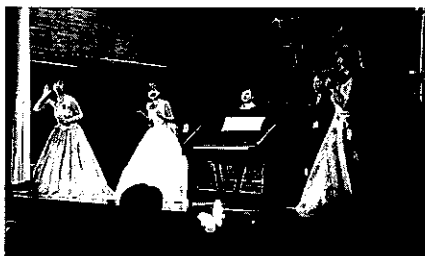
今回のコンサートでは、一人の作曲家に的を絞り、その作曲家から生まれた音楽をクリスマス曲とともに演奏することで、より身近にクラシックを感じてもらいたいと考え、モーツァルトをテーマに選びました。

コンサートは、トーン・チャイムの音色で開演します。一曲目はモーツァルトの歌劇《フィガロの結婚》より《序曲》。この有名な曲を歌のスキヤットとフルート、二台のピアノで演奏して幕を開けました。



当日は、小さな子どもたちにも分かりやすいように、映像を使って進めました。モーツァルトに興味をもってもらえるよう、「次の曲はモーツァルトが何歳の時に作ったでしょうか?」といった質問や、楽器にまつわるクイズも

この曲ではチェレスタと水笛も取り入れました。耳新しい音に子どもたちは興味津々です。この曲の



客との距離を縮めるように心がけました。



随所に交ええました。常にお客様の反応を意識しながら進めることで、講堂という広い場でも、観

有名なフレーズを、歌い方講座を交えつつ、会場 みんなで歌いました。

歌って子どもたちの集中力が高まったところで、二台ピアノによる「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」、声楽とフルートから始まる「もみの木」を演奏。

次はフルートによる「きらきら星変奏曲」ですが、演奏の前に、「きらきら星」を歌いながら音程をハンド・ジェスチャーで示すアクティビティを子どもたちとしました。シンブルな作業ですが、会場 みんながしっかりと表現してくれたので、その後の変奏曲の変化をよりよく感じる事ができたと思います。

その後、「トルコ行進曲」へと

続きます。誰

もが聞いた

ことのある

このメロデ

ィー。今回は、

左手の伴奏

が刻むリズム

に注目し

ました。この



子などを交えたアクティビティを行いました。小学生以上の第二部では、異なるリズム・パターンも取り入れて、難度をあげました。コロコロと入れ替わるリズム、どんどん速くなるスピードに、会場は大歓声でした。次に一転して、モーツアルトの祈りの曲「アヴェ・ヴェルム・コルプス」をオルガンの伴奏で演奏し、厳かな雰囲気を感じてもらいました。

最後は、みんなの大好きなクリスマス曲をメドレーで一緒に歌って幕を閉じました。

終演後は、お客様のうれしそうな顔や声を見聞きすることができて、改めてここでコンサートができたことに対して、感謝の気持ちで一杯になりました。何より、素晴らしいスタッフの皆さんのお蔭で演奏に集中できましたし、津上先生をはじめ先輩方のアドバイスが大きな助けとなりました。卒業後、人から



の祈りの曲

「アヴェ・ヴェルム・コルプス」をオルガンの伴奏で演奏し、厳かな雰囲気を感じてもらいました。

アドバイスを頂けることの有り難みをひしひしと実感している中、このような機会を与えてくださったことに感謝します。この経験を糧に、これからも「アンサンブルちようちよ」の音楽をさまざまなところに届けていきたいと思っています。本当にありがとうございます。

(西村遥子・記)



学外アウトリーチ

兵庫中央病院

九月二十八日(水)、国立



病院機構兵庫中央病院(三田市大原一三一四)でのコンサート(四十五分)に出演しました(声楽・井上美和、フルート・佐野里穂、ヴァイオリン・竹田早希、ピアノ・井上朝葵、黒川彩香)。

病院に入通院されている方々に楽しんでもらうことを目的に、クラシック音楽に加えて、季節を感じさせる日本の歌を取り入れ、一緒に歌ったり音楽に合わせて体を動かしたり、お客様にも参加して頂けるプログラム構成にしました。

まず、ヴァイオリン独奏でエルガー〈愛のあいさつ〉、ピアノ独奏でリスト〈愛の夢〉を演奏。次に中田喜直〈夏の思い出〉、山田耕柞〈赤とんぼ〉、岡野貞一〈ふるさと〉と日本の歌を三曲演奏

したところ、予想以上に多くの方が一緒に歌って下さいました。

続いてヴァイオリンで葉加瀬太郎〈情熱大陸〉、フルートでモーツァルト〈フルート協奏曲第二番〉を演奏し、〈幸せなら手をたたこう〉では歌に合わせて体を動かしてもらいました。お客様が生き生きと楽しそうに歌って下さったり、また自分たちで考えた「幸せなら笑いましょ」という歌詞も好評で、緊張がほぐれたりして、私たちも楽しく演奏できるようにしました。

続いてピアノ連弾でピアソラ〈リベル・タンゴ〉、最後に中村八大〈上を向いて歩こう〉をお客様と一緒に歌いました。



この実習では、お客様の暖かい手拍子や、普段はあまり声を出さない方が一生懸命歌って下さるなど、音楽を通して人との繋がりを深く感じ、音楽の力の大きさを再確認しました。

兵庫中央病院の皆様、ありがとうございました。

(黒川彩香・記)

夙川幼稚園

十一月十日(木)、西宮市立夙川幼稚園(西宮市松ヶ丘町九の二十三)の「秋のコンサート」(二十五分、二回公演)に出演しました(声楽・高井菜摘、ピアノ・松本未来、下麻里子、ヴァイオリン・竹田早希)。

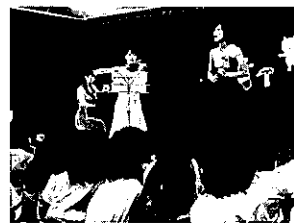
なじみのある曲を聴いてもらいながら、楽器や体から音が出る仕組みを考えてもらうことを目標にプログラムを組みました。

まず、ヴァイオリン独奏でエルガー〈愛の挨拶〉を弾いた後、山田耕柞の〈赤とんぼ〉を歌い、そこから声の出る仕組みを考えてもらいました。喉に手を当てて声帯の動きを感じてもらった後、〈幸せなら手を叩こう〉を皆



でアクティビティを加えて歌いました。幼稚園児を対象とする二回目の公演では、

私たちが言う前に喉が震えていると見つけ出してくれる子もいましたし、分かった時には皆ともうれしそうでした(一回目は地域の子育てサークルの参加親子が対象)。



次に、ピアノ独奏でブルグミュラー〈貴婦人の乗馬〉、声楽とヴァイオリンとピアノで〈星に願いを〉を演奏。最後は、変奏曲のおもしろさを感じてもらうために、モーツァルトの〈きらきら星変奏曲〉を部分演奏した後、一回目は〈きらきら星〉の歌を皆で歌い、二回目はそこにヴァイオリンを加えて歌いました。知っている曲だったので、子どもたちの方から自然と「きらきら」の部分で手の動きが出てきたので、私たちもアドリブで取り入れて子どもたちと打ち解けることができました。

(竹田早希・記)

春風幼稚園

十月二十一日(金)、西宮市立春風幼稚園(西宮市今津野田町二の六)で園児を対象とする「秋のコンサート」(四十分)を行いました(ピアノ・黒川彩香、下麻里子、フルート・佐野里穂、声楽・高井菜摘、アクティビティ・リーダー・奥野いと)。

今回は演奏に加えて、後半に園児たちの意見を吸い上げて皆で曲を作り上げるクリエイティブなアクティビティを取り入れました。



前半は演奏コーナーで、曲の説明を短く入れながら、声楽で「赤とんぼ」、フルートでドヴォルザークの「ユーモレスク」、ピアノでドビュッシー「ミンストレル」、アンサンブルで「星に願いを」の四曲を演奏しました。後半はアクティビティです。「みんなで曲

をつくってみよう」と題して、

「幸せなら手を叩こう」に新しい歌詞を考えます。園児を四つのグループに分け、各グループで意見を出し合って「幸せなら何をするか」を皆で考え、「幸せなら〇〇」と歌詞を作って、それに合わせた動きも考え、グループ毎に発表しました。同じ曲でも、園児から出た意見を吸い上げて作った歌詞は四つのグループで全て異なり、同年齢でも全く違う考えを持っているのだと実感



と実感させられました。今回は幼稚園での初めての練習の実習で、園児の意見を吸い上げて歌詞を作るといふ難題もあつて悪戦苦闘しましたが、とても貴重な経験になりました。

(高井菜摘・記)

神戸市立医療センター

中央市民病院

十一月十七日、神戸市立医療センター中央市民病院(神戸市中央区港島中町四の六)の院内コンサートで実習をしました(ピアノ・松本未来、黒川彩香、ヴァイオリン・竹田早紀、フルート・兵頭千裕、声楽・井上美和、高井菜摘、奥野いと)。

今回のテーマは「様々な国の愛の曲」。国によって表現の異なる愛を感じ取ってもらうことを目指して、ア



ルディーティ作曲「イルバリーチヨ」(声楽、ヴァイオリン、ピアノ)の華やかで情熱的なイタリアの

愛を導入に、フォーレのオペラ《ペレアスとメリザンド》より「シシリエンヌ」の悲しみを秘めた美しいフランスの愛をフルートで、シューベルト作曲「バラのリボン」の濃厚なドイツの愛を声楽で演奏しました。

次に、秋の曲として山田耕筰

作曲「赤とんぼ」を演奏し、アクティビティとして岡野貞一作曲「もみじ」を皆さんと一緒に歌いました。チャイコフスキーの《四季》より「十一月、トロイカ」ではロシアの晩秋の雰囲気を味わってもらい、愛の曲に



戻って、愛らしく美しいエルガーの「愛の挨拶」、最後は美空ひばりメドレーで「愛燦燦」の流れるように「を皆さんと一緒に歌って締めくくりました。

今回、病棟が新築されて、会場は立派な講堂でした。予想以上に広い空間で、緊張して段取りが上手くないところもありましたが、涙を流しながら聴いて下さる方や、体調が悪いのに笑顔で歌って下さる方もあつて、感動しました。最後のお見送りでも、お客様からうれしい言葉や拍手を頂きました。

(奥野いと・記)

雲雀丘学園小学校

十二月十五日(木)、雲雀丘学園

小学校(宝塚市雲雀丘四・二、一)音楽室で四年生四クラスを対象にアウトリーチ実習を行いました。(ヴァイオリン・竹田早希、声楽・井上美和、高井菜摘、ピアノ・井上朝葵、黒川彩香、松本未来、司会・奥野いと)。



「音楽のリズムを感じよう」をテーマに、チャイコフスキー『くるみ割り人形』より「花のワルツ」をピアノ

連弾で、ヘンデルのオペラ『リナルド』より「わたしを泣かせて下さい」を独唱で、ビゼーのオペラ『カルメン』より「ハバネラ」をヴァイオリン独奏で、バルトー



ク(ミクロコスモス)第二百二十六番をピアノ独奏で、映画『若草の頃』の挿入歌で使われた(あなたにささやかなクリスマスマスを)を独唱で、エルガー(愛の挨拶)をヴァイオリンとピアノで演奏し、最後に「きよしこの夜」(ジングル・ベル)をクラス全員と一緒に歌いました。

テーマで掲げた「音楽のリズム」を感じてもらうために、各曲の特徴的なリズム(ワルツ、サラバンド、ハバネラ、変拍子、四拍子、シンコペーション等)を紹介して、手拍子や指揮のリズムを体感してもらいました。

変拍子のリズムの飲み込みの速さに、学園の音楽教育のレベルの高さを実感せずにはいられませんでした。

(井上朝葵・記)

履修生紹介

四年生(十期生)からのメッセージ

井上美和(声楽)



病院で患者様と一緒に「幸せな手をとったこ」を歌って笑ったこと、コンサートで子どもたちが楽しそうに演奏に参加してくれたことは忘れられません。実習を通して、多くの方が音楽を必要としていることを実感し、そのような場で演奏できて幸せでした。支えてくださった皆様に感謝致します。

井上朝葵(ピアノ)



アウトリーチは普段学校では学べない様々な演奏アプローチを追求できる有意義な授業でした。ホールで演奏する以外の音楽の表現は様々な、実際に施設等への実習演奏は本当に実りのある体験でした。目的と意志をはっきりさせたプログラムミングの決定から、それに合わせた計画の設定などの過程が非常に楽しく、音楽というものは相手に聴いてもらえて初めて成立するものだと改めて実感できました。

黒川彩香(ピアノ)



アウトリーチでは、相手の立場を考え思いやる大切さを学びました。実習を重ねる中で、聴衆に楽しんでもらうことはもちろん、準備段階での話し合いや本番でのメンバーとのコミュニケーションも同じくらい大切だと感じました。実習を終える度に反省することが多かったのですが、そこから学ぶことも多く、自分の視野が広がりました。アウトリーチの授業には、今まで勉強してきた音楽を社会の中でどのように役立てるかを考えるヒントがたくさん詰まっています。皆さんもぜひ実習を通して実感して下さい。

松本未来(ピアノ)



私はこの授業を通して音楽で人と関わるということがいかに難しいかを知りました。それぞれのお客さんに楽しんでもらえるように工夫するのは考えていたよりも難しいものでしたが、そういった工夫の仕方を学ぶことができ、今後に活かすことができるので、有意義なものになったと思っています。

奥野いとし(声乐)



私は、アウトリーチを通して多くのことを学びました。リハーサルでの時間の使い方、緊張の中での演奏や司会進行の難しさ、どうすれば聴衆との壁をなくして一緒に音楽を作っていけるか等、本番はもちろんのこと、準備期間の時間の大切さや、一を伝えるためには十も二十も勉強する必要がありますなど、当たり前だけれど、実行が難しい重要なことを学べました。失敗も多かったけれど、感動や発見も多い一年になりました。

高井菜摘(声楽)



私にとってアウトリーチは毎回が発見で、とても新鮮なものでした。「何を知らなかったか」を考えプログラム構成を作成したり、和文和訳したMC台本を作ったり、初めての経験がたくさんしました。毎回反省点も多く出しましたが、自分自身アウトリーチを履修して大きく成長できたと感じています。大変なことでも多かったですが、この授業でしか学べないことをたくさん得ることができました。

竹田早紀(ヴァイオリン)



アウトリーチの授業で、コンサートの時間内での伝え方や案を考えたり、演奏の質を向上させる期間など、限られた時間でどこまで出来るかを学んだりしました。常に時間を計算して予定を立てることについて、自分の考えの甘さを痛感させられました。内向的だった私が様々な方と触れ合うことで積極的に発信したいとも感じるようになり、色々な面で良い経験となりました。



「音楽によるアウトリーチ(講義)」

履修生(十一期生十七名)



ピアノ

川本葉月、熊谷瑞希
中村芽生、山端誠
白井万那、祐成麻奈未
山本麻偉、山下梨乃

声楽

初田朋美、石井麻貴
松田彩起子、米澤典子
フルート
濱悠理子
トロンボーン

藤井美波、鶴房采花
チェロ

湯浅亜佑美

ミュージック・クリエイション

吉田梨絵

ティーチング・アシスタント紹介

東瑛子(本学大学院音楽研究科 二年生)



今年度の「音楽によるアウトリーチ(実習)」の

ティーチング・アシスタントとして履修生と関わる中、私は音楽が持つ「つながり」力について考え続けました。音楽家としてのみならず、私達は各々が違った個性や特性を持ちます。音楽と時間を共有することで、それぞれの個性と特性を「つながり」ために、皆さんには開かれた対話を広く求め続けてほしいと思います。



2011年度 実習履歴

7月 3日	(土)	子どものための七夕コンサート
9月 22日	(水)	国立病院機構兵庫中央病院アウトリーチ
10月 15日	(土)	子どものためのスペシャル・コンサート
10月 21日	(金)	西宮市立春風幼稚園アウトリーチ
11月 10日	(木)	西宮市立夙川幼稚園アウトリーチ
11月 17日	(木)	神戸市立医療センター中央市民病院アウトリーチ
12月 10日	(土)	子どものためのクリスマス・コンサート
12月 15日	(木)	雲雀丘学園小学校アウトリーチ

次号のお知らせ

(通信第 20 号 2012 年 9 月発行予定)

♪ 子どものための七夕コンサート

♪ 卒業生の活動

その他

子どものための クリスマス・コンサート

企画案を公募します！
(6 月末日応募締切)

「音楽によるアウトリーチ」既習生を
中心とするグループでの企画を募集します。

詳細は後日 HP にて発表！

音楽をお届けします！！

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場ですてきな音楽のプログラムをお届けします。

♪ 小中学校へ：総合的学習支援プログラムとして、
子どものための楽しい体験学習を！

♪ 病院や美術館へ：催しの趣旨に沿った手作りの音楽
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター (月～金 10:00～15:00)
〒662-8505 西宮市岡田山 4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551
E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp <http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/>

編集後記

10 期生が卒業となりました。来年度も頑張ってまいります！寺澤
コンサートのお申込がメールでも出来るようになりました。来年度もよろしくお願いします。三上
怒濤の 1 年でした…ひとりてんてこまい続行中です！来年度もがんばります！藤野
アウトリーチの授業を始めて 10 年になりました。次なるステップをめざします。津上